

平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ホッケ

学名 *Pleurogrammus azonus*

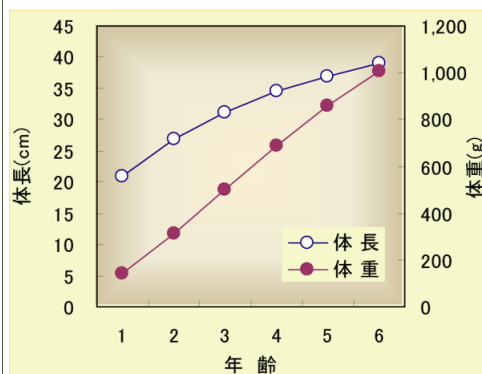
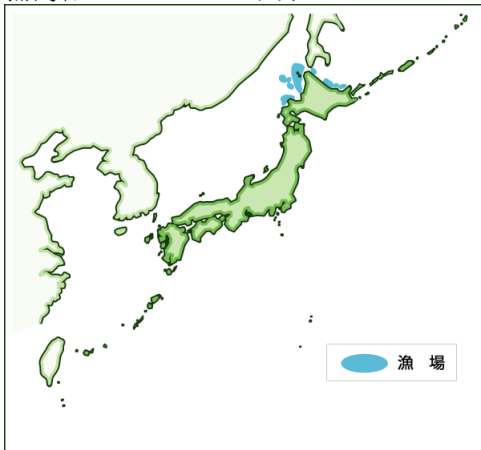
系群名 道北系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 8～9歳
成熟開始年齢: 1歳の終わり頃(満2歳直前)
産卵期・産卵場: 9月中旬～11月上旬、利尻・礼文島の沿岸および武蔵堆の最浅部で産卵
索餌期・索餌場: 稚魚・幼魚期に主としてオホーツク海の表層で生活し、着底後に大部分は日本海へ移動
食性: 仔魚期には主にカイアシ類、未成年期にはヨコエビ類を多く捕食、岩礁周辺で定着生活に移行後は、様々な種類の動物を捕食
捕食者: 不明

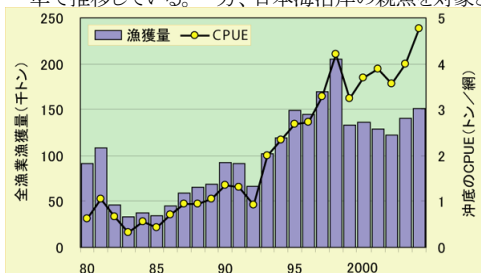


漁業の特徴

ホッケ道北系群は、沖合底びき網(沖底)、刺し網、底建網、まき網などによって漁獲される。漁獲量の大半は、オホーツク海と留萌以北日本海のいずれの海域においても、沖底によってあげられている。

漁獲の動向

ホッケ道北系群の漁獲量は、1980年代後半以降増加傾向にあった。さらに1997年級群が卓越年級群として出現したことにより、1998年には21万トンと過去最大のレベルに達した。1999年以降は12万～15万トン前後と依然として高水準で推移している。一方、日本海沿岸の親魚を対象とした漁獲量は、2004年にそれまでの半分まで減少した。

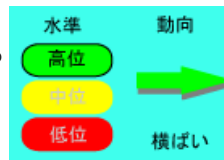
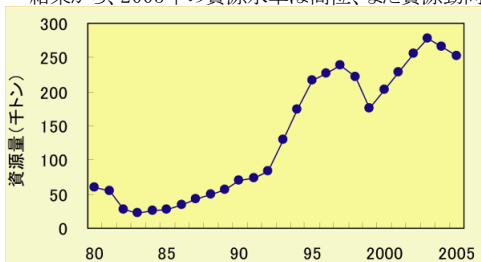


資源評価法

沖底の漁獲量が系群全体の漁獲量の7～8割を占め、かつCPUEの変動が漁獲量の推移と良く一致することから、沖底のCPUEが当該資源の変動を反映する指標と考え、非平衡プロダクションモデルにより資源量、MSY水準ならびにMSYを与える漁獲割合、漁獲努力量などの推定を行った。

資源状態

過去20年間(1986～2005年)の推定資源量の推移から資源水準を、また過去5年間(2001～2005年)の推定資源量の変化から資源動向を判断した。当該資源は1980年代後半に比べて大幅に増加しているが、2003年を頂点としてそれ以降漸減傾向にある。この結果から、2005年の資源水準は高位、また資源動向は横ばいと判断された。



管理方策

資源水準、動向ともに好適な状況にあることから、資源水準をMSYの水準へ導くことを管理目標とした。Flimitは2007年当初の資源量がBmsyとなるように求めたFmsy、FtargetはFlimitに0.8倍した値としてABCを算出した。

	2006年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	209千トン	Fmsy	－	81%
ABCTarget	168千トン	0.8Fmsy	－	65%

資源評価のまとめ

- 過去20年間の推定資源量の推移から資源水準を、過去5年間の推定資源量の変化から資源動向を判断
- 非平衡プロダクションモデルにより資源量、MSY水準などを推定
- 資源は高水準、横ばいで好適な状況

管理方策のまとめ

- 資源水準をMSYの水準へ導くことを目標
- Flimitは2007年当初の資源量がBmsyとなるように求めたFmsy、FtargetはFlimit×0.8とした

資源評価は毎年更新されます。
2005.12.01更新